

資源管理基礎調査（種苗放流）

（要 約）

鈴木亮

目 的

青森県資源管理指針に掲載されている魚種のうちウスメバルとマダラを対象とし、前者については陸奥湾へ来遊する稚魚の動向と移動分散を、後者については稚魚の移動分散を調査する。

材料と方法

1. ウスメバル（陸奥湾来遊稚魚の動向）

平成 27 年 5 月から 6 月にかけて、青森市内地区及び後潟地区のホタテ養殖施設に、浮玉に海藻（アカモク 1 種）を装着したウスメバル稚魚採集用トラップを設置し、トラップ浮体に蟄集する稚魚を船上からタモ網で採集した。

2. ウスメバル（稚魚の移動分散）

当研究所で中間育成したウスメバル 2 歳魚に標識（ダーツタグ）を装着し、当歳魚は左腹鰭を抜去して標識とし、2 歳魚は平成 27 年 9 月 17 日に東通村尻労地先、当歳魚は 10 月 22 日に中泊町小泊及び下前地先に放流した。

3. マダラ（移動分散）

当研究所及び脇野沢村漁協が種苗生産したマダラ稚魚の左腹鰭を抜去して標識とし、平成 27 年 6 月にむつ市脇野沢沖に放流した。

結 果

1. ウスメバル（陸奥湾来遊稚魚の動向）

平成 27 年度のウスメバル稚魚の採集尾数は 45 千尾であり、平成 26 年度を上回る結果となった。時期については例年であれば 6 月に多く採集されるが、平成 27 年度は 5 月に集中して採集された。また、採集したウスメバル稚魚の平均全長は 25.4mm であった。

2. ウスメバル（稚魚の移動分散）

平成 25 年度に採集し当研究所内で中間育成した、132mm サイズの 2 歳魚 1,500 尾（内標識魚 1,050 尾：ダーツタグ、黄色アオスイ 0001-1000, 桃色アオスイ 0901-0950）を、平成 27 年 9 月 17 日に東通村尻労地先へ放流した。また、平成 27 年度に採取し同じく中間育成した 64.5mm サイズの当歳魚 8,200 尾（内標識魚 6,600 尾）を、平成 27 年 10 月 22 日に中泊町小泊及び下前地先へ放流した。

3. マダラ（移動分散）

当研究所及び脇野沢村漁協が種苗生産したマダラ稚魚 9,500 尾に標識を施し、平成 27 年 6 月 16 日に、脇野沢前沖より放流した。